

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	高知県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	宿毛市立東中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	1	3	7	15
生徒数	45	40	39	3	127	

II 研究の概要

1. 研究主題

小規模校の特性を生かした学習集団（授業形態）の工夫を図り、わかる授業づくりを推進する。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 2、3年の数学・全学年の英語においては、少人数コース別授業を実施（生徒の理解度に差がしやすい教科、学年である）
- ・ 2、3年選択数学・選択英語をコース別に実施（生徒の学力、興味関心にあった授業を実施するため）
- ・ 1年の数学においては、T、Tを実施（中学校での基礎的な内容をしっかり理解できるように）
- ・ 2、3年の国語、理科の授業においては、少人数分割授業を実施（2年は40名、3年は39名と多人数であり、理科の実験などの指導が行きとどきにくいので、少人数できめ細かい指導をするため）

(2) 年次ごとの計画

平成14年	○テーマ 学習集団（授業形態）の工夫と改善
	○研究の見通し 生徒の希望・学力・特性などを考慮し、それぞれのコースに分かれて学習することで学習意欲・学力・特性を伸ばすことができる。
	○研究内容・方法 ・ 2、3年の数学・英語において、少人数コース別授業を実施し、研究を進める。

・英語、数学のコース別部会を月1回、全体会を月1回定期的に実施し、研究を進める。

・英語、数学のコース別の授業研究を年1回実施する。

○昨年度の中間報告書の内容

3年英語実力テストの平均（100点満点）

	1回	2回	3回	4回	5回
Aコース	13.3	7.9	14.6	21.0	27.5
Bコース	26.6	23.8	31.4	40.6	43.2
Cコース	53.2	54.3	64.9	68.3	75.7
学年平均	31.0	28.7	37.0	43.3	48.8

3年英語については、総合力のする実力テストにおいて、どのコースも平均点が徐々にではあるが上がっている。このことは英語の力が総合的に伸びていると思われ、成果が見られる。

2年選択数学のテストの平均

内容	正負の数	式と計算	一次方程式	連立方程式	1年の計算テスト	1, 2年の計算テスト
課題テスト		67	72	70	69	80
確認テスト	83	71	77	82	82	

1年の小テストの平均

	NO1~NO5	NO6~NO10	NO11~NO16	NO17~NO23
平均	73.0	77.3	80.0	83.4

課題

- ・学習意欲のない生徒に意欲を持たせる指導。
- ・コースの中での学力差に対応する指導。
- ・コースでの雰囲気づくり。

・英語、数学のコース別部会を月1回、全体会を月1回定期的に実施し、研究を進める。

・英語、数学のコース別の授業研究を年1回実施する。

○昨年度の中間報告書の内容

3年英語実力テストの平均（100点満点）

	1回	2回	3回	4回	5回
Aコース	13.3	7.9	14.6	21.0	27.5
Bコース	26.6	23.8	31.4	40.6	43.2
Cコース	53.2	54.3	64.9	68.3	75.7
学年平均	31.0	28.7	37.0	43.3	48.8

3年英語については、総合力のでる実力テストにおいて、どのコースも平均点が徐々にではあるが上がっている。このことは英語の力が総合的に伸びていると思われ、成果が見られる。

2年選択数学のテストの平均

内容	正負の数	式と計算	一次方程式	連立方程式	1年の計算テスト	1, 2年の計算テスト
課題テスト		67	72	70	69	80
確認テスト	83	71	77	82	82	

1年の小テストの平均

	NO1~NO5	NO6~NO10	NO11~NO16	NO17~NO23
平均	73.0	77.3	80.0	83.4

課題

- ・学習意欲のない生徒に意欲を持たせる指導。
- ・コースの中での学力差に対応する指導。
- ・コースでの雰囲気づくり。

平成15年度	<p>○テーマ 基礎基本を確実に身につけ、前向きに取り組む姿勢を培う</p> <p>○研究の見通し 基礎基本を繰り返し復習すること、学習規律を身に付けさせることによって学習の仕方がわかり、基礎を定着させ、意欲的に学習に取り組む姿勢を培う。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確認をする。 ・中学校での基礎基本、各単元の基礎基本の確認をする。 ・基礎基本の定着のさせ方の研究をする。 ・個に応じた学習指導内容を工夫する。 ・Aコース（基礎基本のコース）を中心に授業研究をする。 ・英語、数学のコース別部会を月1回、全体会を月1回定期的に実施研究を進める。
--------	--

平成16年度	<p>○テーマ コースにあった教材開発と指導法の工夫と改善</p> <p>○仮説 コースの特性にあった指導をすることで、生徒の学習意欲・学力・特性をいっそう伸ばすことができる。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースの特性にあった教材開発と指導法の研究をする。 ・コースでの雰囲気づくりと、意欲を持たせる指導の研究をする。 ・授業評価システムの研究をする。 ・T・Tの効果を高める指導の研究をする。 ・英語、数学のコース別の授業研究とコース別部会を月1回行い、全体会で研修を深める。
--------	--

(3) 研究推進体制

校内研 (全体会)	数学部会	広井・武田・山口・浜口・久保・田能・(今津・大館)
	英語部会	今津・大館・岡山・山沖・下山・國友・(田能・久保)

Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

コース別授業についてのアンケート調査							
[数学について]		2年 [1学期]			[2学期]		
	コース	はい	変わらない	いいえ	はい	変わらない	いいえ
コース別授業は分かりやすいですか	A	7	0	1	5	3	0
	B	11	3	0	12	7	0
	C	6	9	2	3	6	4
	合計	24	12	3	20	16	4
コース別授業をやった良かったですか	A	7	/	1	7	/	1
	B	14		0	17		2
	C	17		0	12		1
	合計	38		1	36		4
		3年 [1学期]			[2学期]		
	コース	はい	変わらない	いいえ	はい	変わらない	いいえ
コース別授業は分かりやすいですか	A	3	1	2	5	0	1
	B	10	6	0	14	2	0
	C	14	3	0	15	1	1
	合計	27	10	2	34	3	2
コース別授業をやった良かったですか	A	3	/	3	6	/	0
	B	16		0	16		0
	C	17		0	17		0
	合計	36		3	39		0

[英語について] 1年 [3学期]

	コース	はい	変わら ない	いいえ
コース別授 業は分かり やすいです か	A	5	0	1
	B	14	3	0
	C	9	6	3
	合計	28	9	4
コース別授 業をやって よかったです か	A	5	/	1
	B	17		0
	C	16		2
	合計	38		3

2年 [1学期]

[2学期]

	コース	はい	変わら ない	いい え	はい	変わら ない	いい え
コース別 授業は分 かりやす いですか	A	6	0	0	6	0	0
	B	8	6	1	7	8	1
	C	14	4	0	13	4	1
	合計	28	10	1	26	12	2
コース別 授業をや ってよか ったです か	A	6	/	0	6	/	0
	B	14		1	16		0
	C	18		0	17		1
	合計	38		1	39		1

3年 [1学期]

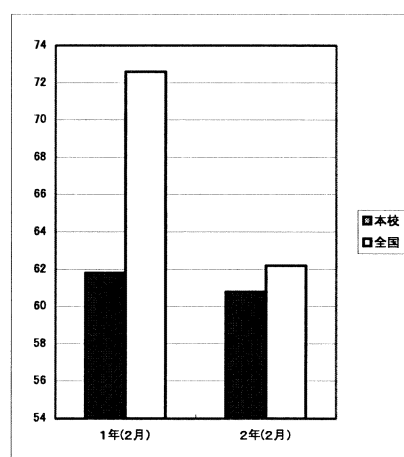
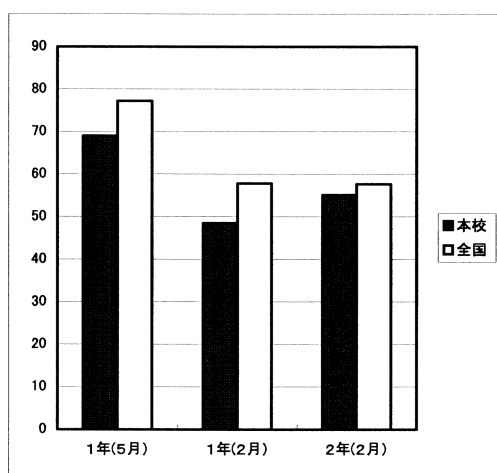
[2学期]

	コー ス	はい	変わら ない	いいえ	はい	変わら ない	いい え
コース別 授業は分 かりやす いですか	A	5	1	1	5	1	1
	B	11	3	0	12	2	0
	C	17	1	0	16	0	2
	合計	33	5	1	33	3	3

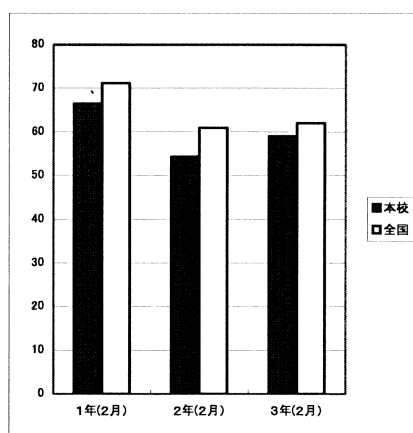
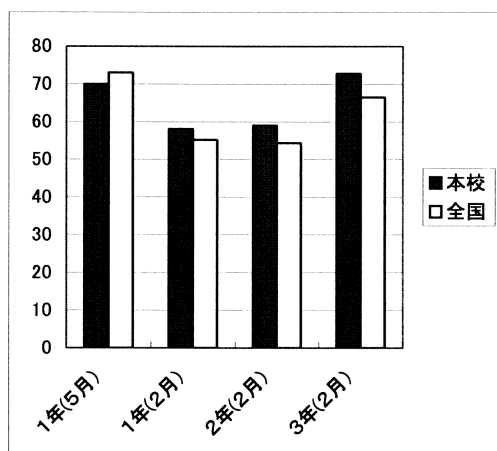
コース別 授業をや ってよか ったです か	A	6	/	1	7	/	0
	B	14		0	14		0
	C	18		0	17		1
	合計	38		1	38		1

アンケート調査では、授業が分かり、コース別授業をやってよかったという生徒が多かった。コース別授業では、授業内容を生徒の学力にあわせて工夫することができ、すべての生徒が授業に参加できる。また、少人数にT・Tで指導していたので、質問しやすく、ひとりひとり自分のペースで学習することができた。発言発表の機会も多くなり、発言しやすい雰囲気ができ積極的に授業に参加したという生徒も多かった。

現3年生の数学・英語の1年（2月5月）2年（2月）CRTの結果



昨年度卒業生の数学・英語の1年（5月2月）2年（2月）3年（2月）CRT

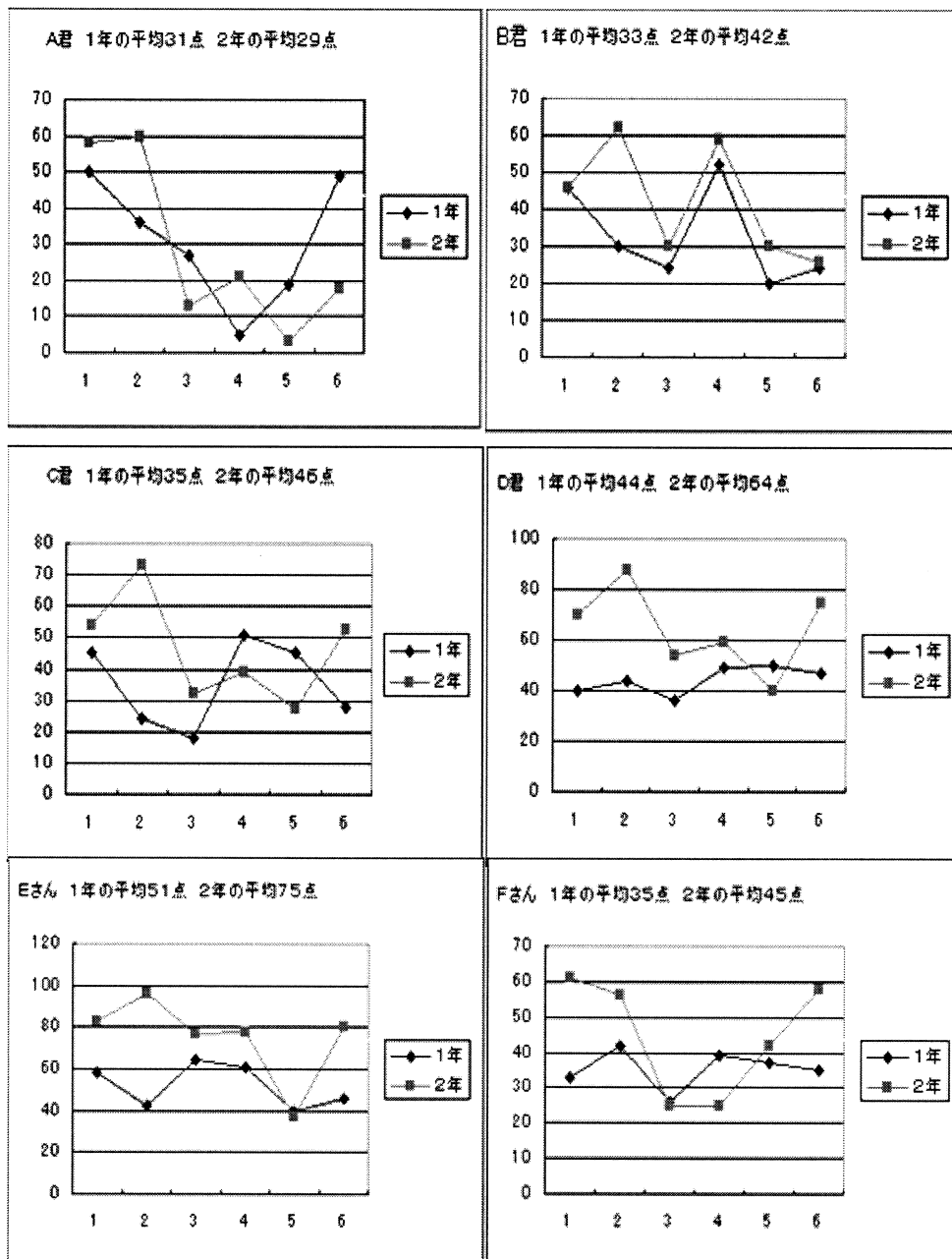


現3年生の昨年2月のCRTの結果では、全国通過率よりは低いですが、前年度と比較すると通過率があがってきた。昨年度卒業生の昨年2月のCRTの結果では、数学は全国通過率より6ポイント以上高く、英語でも通過率が上がった。

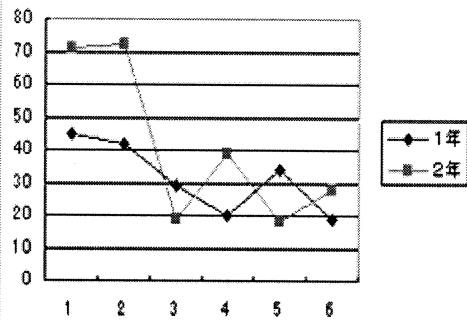
今年度のCRTの結果はまだ出ておらず比較することができない。

今年度は、基礎基本を確実に身につけ、前向きに取り組む姿勢を培うことができるように、A（基礎基本）コースの指導を中心に研究を推進してきた。教科担任がどの学年かのAコースを担当することで、Aコースがみんなの課題になった。

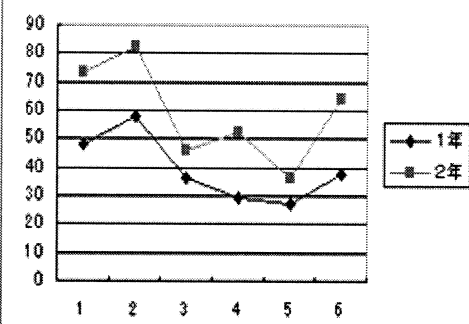
2年数学Aコース個人の1・2年の定期テスト・章末テストの比較



Gさん 1年の平均32点 2年の平均41点

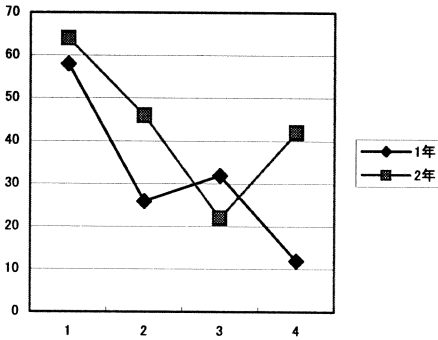


Hさん 1年の平均39点 2年の平均59点

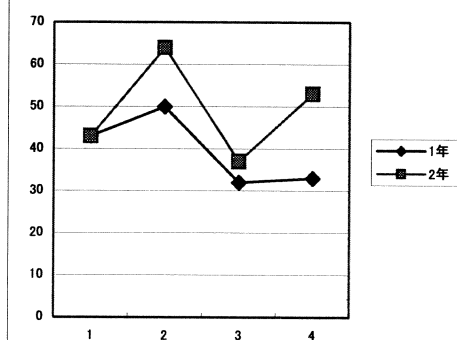


2年英語Aコース個人の1・2年の定期テストの比較

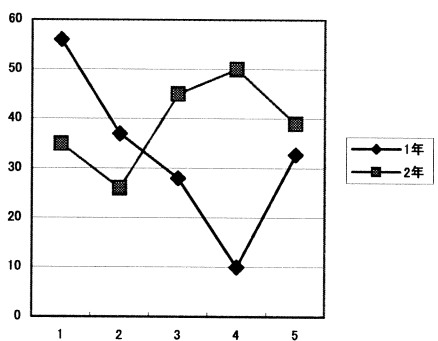
A君 1年の平均32点 2年の平均43点



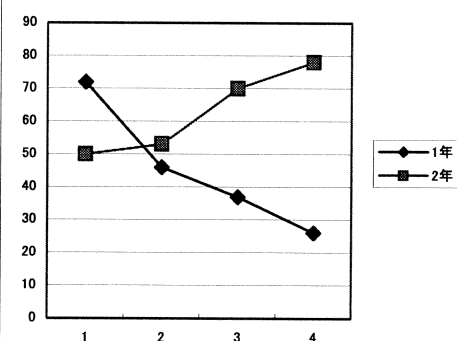
B君 1年の平均39点 2年平均49点

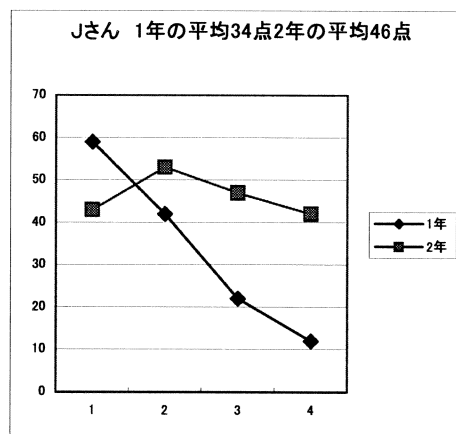
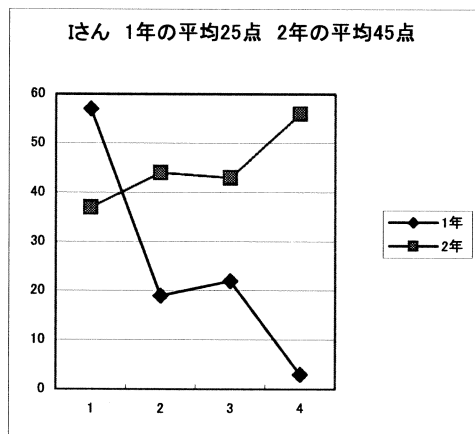
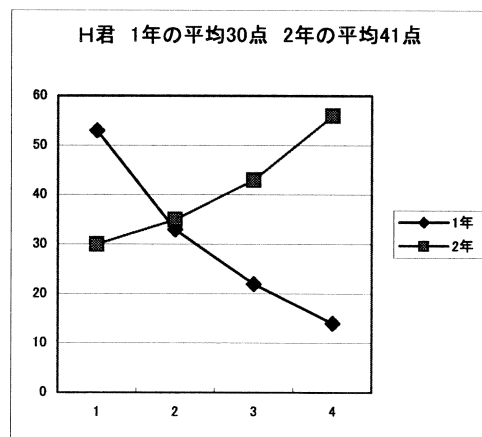
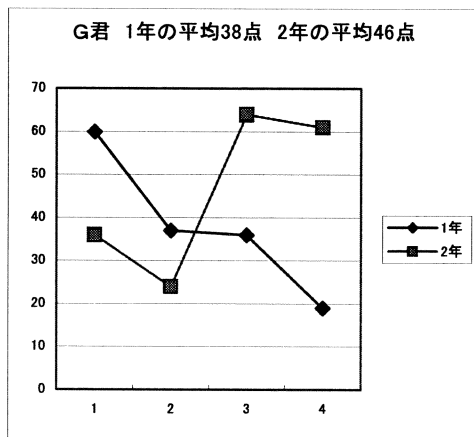
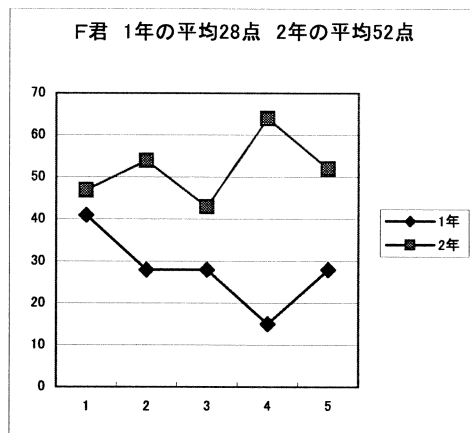
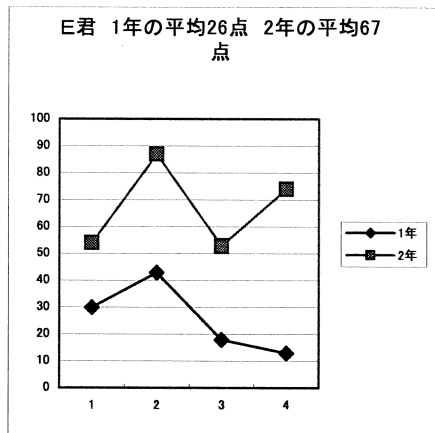


C君 1年の平均33点 2年の平均39点



D君 1年の平均45点 2年の平均63点





2年数学・英語のAコースでは、1年のテストの得点よりはほとんどの生徒のテストの得点がよくなっており、コース別授業の成果が得点にもあらわれている。3年生は、2年生の時からコース別授業に取り組み、2年の得点と3年の得点は、めだった変わりかたはしていないが、中学校の基礎基本は着実に身に付けてきている。

2. 今後の課題

少しでも分かってほしいという気持ちで、真面目に取り組もうとする生徒は、確実に力をつけてきたが、生活面に課題があり学習意欲の低い生徒は、なかなか授業に集中できず、力をつけることが難しい。コース別授業でも、学習する姿勢を育てないと効果が上がらないので、生活指導、進路指導などを通して、学習する雰囲気づくりが大切である。また、そのためには生徒たちにしっかりした目標をもたせることが必要である。

来年度は、基礎基本の定着のさせ方についてさらに研究推進を深めるとともに、発展的な学習や課題学習などコースにあった教材の開発と指導法の研究を進めていきたい。

IV 学力把握のための学校としての取組

- ・学力実態調査（C R T）全学年2月
- ・実力テスト 3年は5月、6月、9月、11月、1月 1, 2年は9月
- ・計算力テスト 1年は4月 2年は9月と1月 3年は9月と2月
- ・漢字テスト 1年4月
- ・英数定着度テスト 全学年月1回
- ・定期テスト 全学年1, 2学期2回、3学期1回
- ・章末テスト 1つの単元が終わった時

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年6月18日 数学授業研で西土佐中学校と交流学习

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無